

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒110-0016 東京都台東区台東1-14-11
ヒロエンジニアリング(株)内
TEL (03) 5812-4111
FAX (03) 3833-6674
MAIL toukankyo@car.ocn.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

○ 災害時における石綿モニタリング調査報告

○ 「都民計量のひろば」報告

○ 第35回 環境測定技術事例発表会報告

○ 2024年度 技術研修会報告

○ 2025年 新春賀詞交歓会報告

「新年のご挨拶」

- | | |
|--------------------|------------|
| ・東京都環境計量協議会 | 会長 平賀 積善 |
| ・東京都環境局環境改善部 | 部長 戸井崎 正巳様 |
| ・東京都生活文化スポーツ局計量検定所 | 所長 戸澤 互様 |

○ 2024年度 環境計量証明事業団体合同研修会報告

○ 受賞のお知らせ

○ 関係機関・団体の動き

- ・首都圏環境計量協議会連絡会
- ・(一社)神奈川県環境計量協議会
- ・(一社)埼玉県環境計量協議会
- ・千葉県環境計量協会
- ・(一社)日本環境測定分析協会

○ 東環協からのお知らせ

- ・2025年度 主要行事予定
- ・事務局からのお知らせ

災害時における石綿モニタリング調査報告

東京都環境計量協議会は、2020年9月10日付で東京都との間で「災害時における石綿モニタリング調査に関する協定」を締結しています。

今回は、10月16日(水)に東京都環境局の主催により「令和6年度 災害時アスベストばく露・飛散防止研修会」が開催されましたので報告いたします。最初に本協定についての解説を東京都環境局より講義いただきました。続いて(一社)建築物石綿含有建材調査者協会の外山氏より「アスベストの露出状況調査について」の講義、東環協を代表して石綿モニタリングネットワーク機関の(株)環境管理センター塩野氏より「環境モニタリングについて」の講義が行われました。本講義では調査の現場からの中継を交え実際の調査の様子を解説されていました。

座学終了後に、会場参加された東京都の自治体関係者の方々に対して、実際にアスベスト分析で使用するサンプリング機器や顕微鏡などを使ったデモンストレーションを行い、石綿モニタリング調査に関する知識・理解を深めていただきました。

東京都内、都下の自治体からの参加者は、53名(28自治体)でした。

令和6年度 災害時アスベストばく露・飛散防止研修会

開催日時 : 2024年10月16日(水)10:00~15:40
開催場所 : 都庁第一本庁舎5階 大会議場
開催方法 : 会場参加及びオンライン(Zoom ウェビナー)の併用

プログラム:

- 1 開会
- 2 講義

・座学(現地及びオンライン)

- | | |
|--|-------------|
| (1) 災害時における飛散防止マニュアル及び災害時のアスベスト対策に係る協定について | 10:00~10:30 |
| 講師: 東京都環境局 | |
| (2) アスベストの露出状況調査について | 10:35~11:20 |
| 講師: (一社) 建築物石綿含有建材調査者協会 副代表理事 | 外山 尚紀氏 |
| (3) 環境モニタリングについて | 11:30~12:15 |
| 講師: 東京都環境計量協議会 会員企業
株式会社環境管理センター | |
| ソリューション事業部環境政策部環境対策2グループ | 塩野 拓海氏 |

・実務(現地)※2班に分かれて実施

(4-1)アスベストの露出状況調査の方法

13:30~14:30

講師：(一社)建築物石綿含有建材調査者協会 副代表理事

外山 尚紀氏

(4-2)環境モニタリングの方法

14:40~15:40

講師：東京都環境計量協議会 会員企業

株式会社環境管理センター

ソリューション事業部環境政策部環境対策2グループ

塩野 拓海氏

技術センター アスベスト分析グループ

奥村 謙介氏

平光 優議氏

3 閉会



講義風景 座学



講義風景 実務

「都民計量のひろば」報告

東京都では、11月1日の計量記念日に都民の方々に楽しみながら計量への関心を高めていただくために、「都民計量のひろば」を開催してきました。

テーマ：メインテーマ「くらしと計量」

サブテーマ：「来て見て 触れて たしかめよう！はかることの大切さ」

日程：2024年11月1日（金）10：30～16：00

場所：新宿駅西口広場イベントコーナー

主催：都民計量のひろば実行委員会〔構成団体 東京都計量検定所、（一社）東京都計量協会、東京都環境計量協議会、他計16団体〕

今年度の都民計量のひろばは、常設コーナーとして「健康と計量」、「水道と計量」、「電気と計量」、「ガスと計量」、「環境と計量」、「食品と計量」、「計量体験 1（計量器の展示とゲーム）」、「計量体験 2（棒はかりと寒暖計の工作）」の8コーナーが設けられ、そのうちの「環境と計量コーナー」の1ブースに当協議会が出展させていただきました。また、常設コーナーとは別にステージ・アトラクションとして箏(こと)やマリンバの演奏、計量マジックが催されました。当ブースにおいては、地球温暖化、PM2.5、マイクロプラスチックの紹介をパネル展示しました。

この日は朝から穏やかな一日で、来場者の出足も好調でした。また、クイズラリーに参加していただいた来場者には、各ブースを回って出展内容をもとに作成したクイズに回答してもらいました。その際、当協議会のパネルも興味深くご覧いただきました。

どのブースも平日開催にもかかわらず多くの来場者で賑わいをみせ、盛況のうちに幕を閉じました。



展示風景



スタッフ一同

第 35 回 環境測定技術事例発表会報告

昨年度から引き続き、参加者全員が会場に集まり、対面形式で開催することができました。発表会当日は好天にも恵まれ、会員 20 社 34 名、協賛企業 8 社 15 名、発表者 5 名に来賓を含め総勢 61 名の皆様に出席していただきました。来賓には東京都環境局、東京都計量検定所、(一社)日本環境測定分析協会、大阪環境測定分析事業者協会から計 7 名にご臨席いただきました。

東環協 平賀会長の挨拶



皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、日本環境測定分析協会様、大阪環境測定分析事業者協会様ならびに多くの正会員・賛助会員の皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

当協議会の技術事例の発表会の意義について私は次の様に考えております。例えば現在東京都と当協議会との間で締結しています災害時アスベストばく露飛散防止協定における研修会は私の目指すべき技術事例の一例と捉えています。東京都、建築物石綿含有建材調査者協会、当協議会がそれぞれの強みを活かし協力し合いながら、災害発生時及び平時における準備、問題点の抽出・共有、実際の測定器を用いた採取及び測定機材に直接触れる等、実際の災害現場及び現場事例を基に講習会を実施しております。この様に環境計量業界だけでなく他の業界団体及び自治体とスクラムを組んで社会を変えるべく施策を進める重要な技術事例と言えると考えております。環境計量業界の基盤となる技術は精度を求めた現場測定及び分析技術となりますが、広い視野を持って社会を変えるという観点において、その先にある技術に着目し進んで行くべきと考えています。社会の変化に対応すべき業務の効率化、各種計画施策の推進、当環境計量業界から社会を変えるという一歩先の技術を皆様と共に作り上げていきたいと思っております。災害協定の例にありましたが、一歩先の技術と言う観点でまずは賛助会員皆様や環境計量業界会員皆様とお互いの強みを活かし新しい技術及びアイデアが生まれるヒントとなる技術事例発表会にすることが私の目標でもあります。

また、このような貴重な財産である環境測定事例発表会を積極的に外部へ発信して行き、環境計量業界認知度向上及び当協議会の方向性を外部業界及び自治体へどの様な有効的な手段で発信出来るかを考えて行く必要があると考えています。外部発信として今回の第 35 回環境測定技術事例発表会要旨集は増刷をし、引き続き東京都環境局をはじめとする多くの関係機関にお渡しして行きたいと考えています。外部への発信手法として皆様の中に良いアイデアがあれば積極的に取り入れていきたいと考えております。本日の環境測定技術事例発表及び出展企業による技術発表がありますが、自社の強みが活かさないか？他の業界に活かさないか？この技術の先にある社会を創造するという視点を持って本日の環境測定技術事例発表を聞いて頂ければと思います。

皆様、本日は宜しく申し上げます。



展示ブース見学



発表の様子



質疑応答の様子

事例発表・第1部 事例発表①～③

以下、発表申込書に記載の要旨を引用させていただきました。

① 「三点比較式臭袋法における試験開始濃度が結果に与える影響についての検討」

株式会社環境管理センター 加藤 祐一郎



「三点比較式臭袋法」は、気体の臭気指数を測定する方法で「嗅覚測定法」に分類される人の嗅覚を用いて悪臭を測定する方法の1つである。測定では嗅覚パネル6名に対して2つの無臭袋と1つの付臭袋を提示し、3つの袋から付臭袋を回答させる。

当初希釈倍数の設定が測定結果に与える影響について検討した報告はない。

本検討では三点比較式臭袋法における当初希釈倍数が測定結果に与える影響について考察を行った結果を発表した。

② 「ふっ素蒸留分析における小型蒸留装置の導入事例」

株式会社オオスミ 中村 宜央



ふっ素の分析方法において2019年改正のJIS K0102 工場排水試験方法(以下、規格)では、34.1 ランタン-アリザリンコンプレキソン法(以下、従来の蒸留法)の備考.1(以下、小型蒸留法)で小型蒸留装置を利用した方法が追加された。小型蒸留法は現在の環境関連の試験方法では、法令上除外規定となっているが、環境省が実施する令和5年度環境測定分析統一精度管理調査ではふっ素の分析に小型蒸留法の選択が可能であった。

小型蒸留装置は、今後環境水や土壌溶出液等の様々な性状の試料の分析に活用が期待されるため、社内での導入検討を行った。従来の蒸留法から小型蒸留法へ変更することによって、いくつかのメリットが考えられた。小型蒸留装置の導入を検討されている方の一助になればと思い、実際に検討試験を行った際の結果や気づきを発表した。

③ 「AI カメラによる交通量調査の実証試験」

ムラタ計測器サービス株式会社 福山 哲司



近年 AI や IoT の技術発展が進んでおり、環境調査においてもこれら技術の導入が検討・進行している。自動車交通量結果は環境アセスメントにおいて大気汚染、騒音、振動の発生源データとして活用でき、様々な開発事業等で実施されるほど重要である。

しかし、調査にあたって観測員の確保やその作業人工、拘束時間、日程調整等の諸問題が取り巻いているのが実情である。

それら課題解決にむけて、省人化や作業効率化を目指して AI カメラの活用を検討し、様々な実証試験が行われている。

実用化に向けたこれまでの実証試験の知見より、「電源の確保」、「設置場所の制限」、「機材設置に要する時間的コスト」といった現地調査時の課題、また、「第三者による制度検証の情報が乏しい」といった課題が明らかになっている。特に、環境モニタリングにおいて実施されている交通量調査は 24 時間観測など短時間の観測であることが多く、コスト面からも簡易な設置が行えることが重要である。そこで、AI カメラによる交通量調査システムを用いた現地作業と測定結果に着目した実証試験と検証を行い、その精度およびコストの面からシステムを有効活用できる範囲を発表した。

協賛企業によるプレゼンテーション その1

事例発表第一部の最後は、協賛企業4社によるプレゼンテーションがありました。ヴェオリア・ジェネッツ株式会社からは有機フッ素化合物分析に最適な高感度分析用超純水装置について、関東化学株式会社からは、PFAS分析用の試薬及び薬品管理システムについて、ジーエルサイエンス株式会社からはPFAS分析用固相カラムやDelayカラムについて、株式会社島津製作所からは、マイクロプラスチック用の前処理装置について、それぞれご紹介いただきました。



ヴェオリア・ジェネッツ株式会社様



関東化学株式会社様



ジーエルサイエンス株式会社様



株式会社島津製作所様

ブース見学/休憩



ヴェオリア・ジェネッツ株式会社様



関東化学株式会社様



ジーエルサイエンス株式会社様



株式会社島津製作所様



日本コントロールシステム株式会社様



株式会社テストー様



輝達商事株式会社様



ビーエルテック株式会社様

協賛企業によるプレゼンテーション その2

休憩時間を利用した展示ブース見学のアとは、引き続き協賛企業4社によるプレゼンテーションがありました。日本コントロールシステム株式会社からは現場写真自動リンク管理システム「pictum」について、株式会社テストーからはポータブル排ガス測定装置「testo 359J」について、輝達商事株式会社からは中古分析機器の買い取りと販売について、ビーエルテック株式会社からはオートアナライザー「MiSSION」について、それぞれご紹介いただきました。



日本コントロールシステム株式会社様



株式会社テストー様



輝達商事株式会社様



ビーエルテック株式会社様

事例発表・第2部 事例発表④～⑤

以下、発表申込書に記載の要旨を引用させていただきました。

④ 「AI 画像認識を使用した交通量調査の試み」

ダイネツ環境リサーチ株式会社 上原 貴浩



沿道の環境騒音測定と同時に行われる交通量調査（車速測定・車種別台数調査）は、作業員による計数の場合が殆どである。現場管理者にとっては作業員への指示が煩雑であったり、また作業員にとっては夜間作業で体力的な負担も大きいため、自動的に機械等で計数する装置などが望まれる所である。

本件では、最近身近になってきたAI(人工知能)を活用し、安価な装置で多点数でも対応でき、事後分析作業も人手がかからず自動的に計数する様な方法の検討について発表した。

⑤ 「分析作業における安全衛生管理（自社でのヒヤリハット事例より）」

いであ株式会社 近野 良哉



フィールドでの作業では従事前の「危険予知の取組み」が必須事項となっている。

一方、私たちが日常的に行っている化学分析では、危険性を伴う薬品や設備を用いた作業が数多く存在し、従事する前に個々の操作の危険を想定した十分な準備が必要であるにも拘わらず、往々にして疎かになりがちである。

今回は、自社で発生した軽微な事故（手の火傷）をきっかけとして、分析室全体で行われている作業のどこにどのような危険があるかについての洗い出しと見える化、設備や作業ごとの注意事項の整理、作業に応じた保護具の着用の周知徹底、想定される主な事故に対する応急処置方法の整理等を行った。

併せて、厚労省の「労働安全衛生法の新たな化学物質規制」への社内対応状況についても発表した。

懇親会

事例発表会のあとは、アルカディア市ヶ谷4階「鳳凰」にて恒例の懇親会が、東環協 織間理事の司会進行により17:30にスタートしました。東環協の平賀会長から主催者挨拶があり、東京都環境局環境改善部 名取大気保全課長、(一社)日本環境測定分析協会的小林副会長より来賓挨拶をいただきました。

大阪環境測定分析事業者協会の藤原副会長による乾杯のご発声をいただき事例発表会後の懇親会が開催されました。



東環協 平賀会長による主催者挨拶



東京都環境局 名取課長による来賓挨拶



日環協 小林副会長による来賓挨拶



大環協 藤原副会長による乾杯のご発声

発表会の緊張感から開放され、和やかな雰囲気の中、名刺交換や発表者・展示協賛企業への質問などが活発になされ、参加者間の交流が行われていました。通常の業務では同業他社の技術者と交流する機会がなかなかないこともあり、参加者間の交流は大変有意義なものであったようです。

会場の皆さんのお腹も満たされ、お酒の酔いも程よく回ってきたところで、本日の発表者への記念品の贈呈が行われました。司会者からの指名で一人ひとり壇上に上がっていただき、平賀会長から記念品が渡され、会場から盛大な拍手が送られました。

さらに、展示協賛企業の皆様にも壇上に上がっていただき、本日の事例発表会の感想や、製品紹介をご披露いただきました。



記念品の贈呈



発表者の皆様



展示協賛企業の皆様



会場風景

盛大に盛り上がった懇親会ですが、楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は東環協 小柳監事による、一本締めで懇親会がお開きとなりました。発表者の皆様におかれましては、素晴らしい事例発表をありがとうございました。来年度の事例発表会も多くの方々にご参加いただけることを祈念いたします。



東環協 小柳監事による中締め



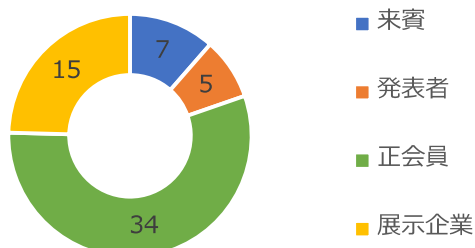
参加者の皆様

【アンケート集計結果】

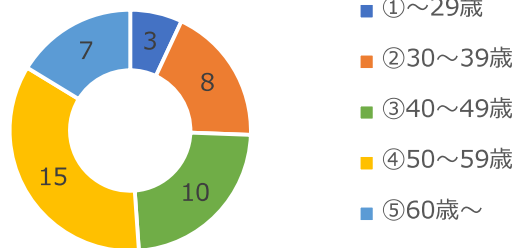
参加者の皆様に事例発表会後のアンケートにご協力いただきました。「事例発表の中で興味を持った、参考になった発表はありますか？」の回答では5題の発表それぞれが15～26%ととなり、拮抗した結果となりました。

最も興味をもった発表についての感想を自由形式で回答いただいたので、その一部をご紹介します。他にも貴重なご意見・ご感想を寄せていただきましたので、このアンケートの結果は今後の事例発表会運営の参考にいたします。

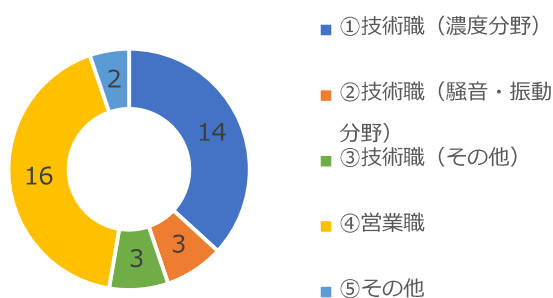
参加区分



年齢層



職種【正会員限定】



参加者からの感想

想定される試料のバリエーションが多岐にわたるため第2弾があればぜひ聞きたい。(事例発表①)
必要な装置を用いることで省力化できることがわかったので他の規格項目でもそのような技術あれば共有して欲しいです。(事例発表②)
AI カメラの検討については聞いたことがありましたが、問題点が次々と解決されており実装直近になっていると感じました。(事例発表③)
AI と小型の装置を用いた先進的な取組みで今後の実用化を期待します。(事例発表④)
ラボ、現場で存在する危険について再認識させて頂いた。(事例発表⑤)

東京都環境計量協議会
第35回 環境測定技術事例発表会プログラム

2024年11月20日(水) アルカディア市ヶ谷(受付開始12:20～)

【事例発表会】12:50～ 5階 大雪

【懇親会】17:30～ 4階 鳳凰(19:30閉会)

I. 開会 12:50～13:10

総合司会：近野 良哉 [東環協 副会長、いであ(株)]

主催者挨拶	東京都環境計量協議会	会長	平賀 積善
来賓紹介	一般社団法人日本環境測定分析協会	会長	小野寺 明様
	〃	副会長	小林 琢也様
	〃	専務理事	小林 秀司様
	大阪環境測定分析事業者協会	副会長	藤原 幹大様
	〃	技術委員長	佐才 秀平様

II. 事例発表

事例発表・第1部

座 長：大杉 一喜 [東環協 理事、ユーロフィン日本環境(株)]

13:10～13:30 事例発表 ①

「三点比較式臭袋法における試験開始濃度が結果に与える影響についての検討」
株式会社環境管理センター 加藤 祐一郎

13:30～13:50 事例発表 ②

「ふっ素蒸留分析における小型蒸留装置の導入事例」
株式会社オオスミ 中村 宜央

13:50～14:10 事例発表 ③

「AI カメラによる交通量調査の実証試験」
ムラタ計測器サービス株式会社 福山 哲司

14:10～14:40 ≪ 展示協賛企業によるプレゼンテーション その1 ≫

1. ヴェオリア・ジェネッツ株式会社
2. 関東化学株式会社
3. ジーエルサイエンス株式会社
4. 株式会社島津製作所

14:40～15:40 展示ブース見学/休憩

15:40～16:10 ≪ 展示協賛企業によるプレゼンテーション その2 ≫

5. 日本コントロールシステム株式会社
6. 株式会社テストー
7. 輝達商事株式会社
8. ビーエルテック株式会社

事例発表・第2部

座 長：笹嶋 宏 [東環協 理事、(株)分析センター]

16:10～16:30 事例発表 ④ <大環協・交流発表>

「AI 画像認識を使用した交通量調査の試み」

ダイネツ環境リサーチ株式会社 上原 貴浩

16:30～16:50 事例発表 ⑤

「分析作業における安全衛生管理（自社でのヒヤリハット事例より）」

いであ株式会社 近野 良哉

Ⅲ. 閉会 16:50～17:00

閉会挨拶：木村 直樹 [東環協 副会長 (一財)東海技術センター]

事務連絡

17:00～17:30 << 移動/休憩 >>

Ⅳ. 懇親会 17:30～19:30

司 会：織間 康行 [東環協 理事、ムラタ計測器サービス(株)]

2024年度

第35回環境測定技術事例発表会 参加者名簿

2024年11月20日（水） 於 アルカディア市ヶ谷

来賓

東京都生活文化スポーツ局計量検定所	所長	戸澤 互様
東京都環境局環境改善部大気保全課	課長	名取 雄太様
(一社) 日本環境測定分析協会	会長	小野寺 明様
〃	副会長	小林 琢也様
〃	参事	小林 秀司様
大阪環境測定分析事業者協会	副会長	藤原 幹大様
〃	技術委員長	佐才 秀平様

発表者（発表順）

No	会社名	氏名	備考
1	(株) 環境管理センター	加藤 祐一朗	
2	(株) オオスミ	中村 宣央	
3	ムラタ計測器サービス (株)	福山 哲司	
4	ダイネツ環境リサーチ (株)	上原 貴浩	大環協・交流発表
5	いであ (株)	近野 良哉	

5社 5名

会員参加者

No.	会社名	氏名	備考
1	1 (株) オオスミ		
2	6 (株) 環境管理センター		
3	10 (株) 環境技術研究所		
4	11 (株) 環境技術センター		
5	12 (株) 環境総合リサーチ		
6	13 環境リサーチ (株)		
9	15 新日本環境調査 (株)		
10	16 (株) 総合環境分析		
11	17 ダイヤアクアソリューションズ (株)		
12	18 帝人エコ・サイエンス (株)		
13	19 (一財) 東海技術センター		

14	22	ヒロエンジニアリング (株)		
15	25	(一財) 広島県環境保健協会		
16	27	(株) 分析センター		
17	28	ムラタ計測器サービス (株)		
18	32	ユーロフィン日本環境 (株)		
19	33	イー・サポート高円寺		賛助
20	34	(一社) 日本環境測定分析協会		一般

20社 34名

協賛企業

1	2	ヴェオリア・ジェネッツ (株)		
2	4	関東化学 (株)		
3	5	輝達商事 (株)		
4	6	ジーエルサイエンス (株)		
5	8	(株) 島津製作所		
6	10	(株) テストー		
7	12	日本コントロールシステム (株)		
8	15	ビーエルテック (株)		

8社 15名

来賓 7名
 発表者 5名
 会員 20社 34名
 協賛企業 8社 15名
 計 61名

2024年度 技術研修会報告

「2024年度 技術研修会」は新年の賀詞交歓会と同日の開催とさせていただき東京都生活文化スポーツ局 計量検定所 検査課長代理 鈴木麗子様、東京都環境局 環境改善部 大気保全課長 名取雄太様をお招きしてご講演いただきました。

日 時 : 2025年1月21日(火) 15:00~17:00
場 所 : アルカディア市ヶ谷 6階 「霧島(東)」

東環協 平賀会長の開会挨拶



平賀会長

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い致します。

本日忙しい中ご出席いただきました東京都環境改善部様、東京都計量検定所様、日本環境測定分析協会様、そして多くの会員企業の皆様にお集まりいただき心より感謝致します。

本日1月21日は、薩長同盟の結ばれた日となります。薩長同盟ではありませんが、本日講演をしていただける東京都環境改善部様と東京都計量検定所様とが環境計量業界における採取・分析精度の推進、重要性の共有と言う名のもとに新しい幕が開かれる大切な一日となると確信しております。私たち東京都環境計量協議会は土佐藩坂本龍馬、中岡慎太郎ではございませんが、仲介役として環境業界の未来に邁進する所存でございます。

環境業界の夜明けは近いぜよ！

委託業務における履行条件が変わる未来の大きな第一歩を会員の皆様、本日は目に焼き付けて下さい。本日は宜しくお願いします。

講演① 環境計量証明事業者に対する立入検査について

東京都生活文化スポーツ局計量検定所
検査課長代理 鈴木 麗子様



鈴木様

今回は「環境計量証明事業者に対する立入検査について」というテーマで講演いただきました。

本講演は「立入検査の概要」「立入検査の結果と指導事例」「今後の計量管理の注意点」の3つの内容について講演いただきました。

・立入検査の概要

根拠法令や東京都の方針として立入頻度は原則3年度ごとである旨、立入検査の流れ、検査事項について説明いただきました。

・立入検査の結果と指導事例

立入の状況を改善指示及び口頭指導について事例を交えつつ講義いただきました。その他、立入検査以外での指導事例として検定有効期限切れを取り上げられ、注意喚起及び改善策について説明いただきました。

・今後の計量管理の注意点

騒音計・振動レベル技術基準改正にともなう経過措置が騒音計については令和9年まで、振動レベル計については令和4年に終了済みである旨の注意喚起をいただきました。

立入側からのご講演ということで大変貴重なものでした。

また、質疑応答では立入検査に計量事業者全体の品質向上への寄与を求める意見を多くいただきました。

ご講演、ありがとうございました。

講演② 東京都の大気汚染対策～環境基本計画、大気の現状、

アスベスト対策～

東京都環境局環境改善部
大気保全課長 名取 雄太様



名取様

今回は「東京都の大気汚染対策～環境基本計画、大気の現状、アスベスト対策～」というテーマで、本講演は「東京都環境基本計画（2022）」「東京都の大気の状態」「東京都のアスベスト対策」「最近の大気汚染対策の動向」の4つの内容について講演いただきました。

・東京都環境基本計画（2022）

環境基本計画が掲げる戦略のうち、環境計量事業と関わりの深い【戦略3 都民の安全・健康が確保されたより良質な都市環境の実現】について東京都の2050年のあるべき姿とそれに向けて2030年までにとるべき行動を説明いただきました。

・東京都の大気の状態

東京都の大気の状態について1970年代と近年の写真を比較しつつ、多くの大気汚染物質について環境基準を達成していることを説明いただきました。一方でPM2.5や光化学オキシダントにおいては課題が残っており、環境対策の取組を広げていく必要があるとの説明いただきました。

・東京都のアスベスト対策

都内におけるアスベスト含有建材が使用されている建築物の解体件数が2050年ごろまで高水準で推移することが予想される一方、大気汚染防止法の改正に関する事業者の理解不足に起因する指導事案が増えていることを説明いただきました。また、災害時におけるアスベスト対策についても説明いただきました。

・最近の大気汚染対策の動向

海外の動きとしてPM2.5の規制強化がみられること、国内の動きとして環境省や他自治体の取組について説明いただきました。

質疑応答の場では、都が蓄積する環境データの活用や、環境計量事業者への立入の要望、今後の展望等について質問、意見をいただきました。

ご講演ありがとうございました。



講演①



講演①質疑応答



講演②



講演②質疑応答



2024年度 技術研修会 参加者

東京都環境計量協議会

2025年1月21日

於 アルカディア市ヶ谷 6階 「霧島東」

技術研修会

講演①：「環境計量証明事業者に対する立入検査について」

講師 東京都生活文化スポーツ局計量検定所 検査課長代理 鈴木 麗子様

講演②：「東京都の大気汚染対策～環境基本計画、大気の現状、アスベスト対策～」

講師 東京都環境局環境改善部 大気保全課長 名取 雄太様

来賓

東京都環境局環境改善部 部長 戸井崎 正巳様

東京都生活文化スポーツ局計量検定所 所長 戸澤 互様

東京都生活文化スポーツ局計量検定所 検査課長 大塚 靖直様

(一社)日本環境測定分析協会 会長 小野寺 明様

(一社)日本環境測定分析協会 副会長 清水 重雄様

会員

No	会社名	氏名	備考
1	1	いであ (株)	
2	2	(株) エオネックス	
3	8	(株) 環境管理センター	
4	10	(株) 環境技術研究所	
5	11	(株) 環境総合リサーチ	
6	12	環境リサーチ (株)	
7	13	シグマジオテック (株)	
8	15	(株) 島津テクノリサーチ	
9	16	新日本環境調査 (株)	
10	17	成友興業 (株)	
11	18	(株) 総合環境分析	
12	19	ダイヤアクアソリューションズ (株)	
13	21	(株) デイラボ	
14	22	(一財) 東海技術センター	
15	23	(株) 日新環境調査センター	
16	24	(株) 日本シーシーエル	
17	25	(株) 日本総合科学	

18	26	日本物理探鑛 (株)	
19	28	(株) 日本分析	
20	30	ヒロエンジニアリング (株)	
21	32	(一財) 広島県環境保健協会	
22	35	(株) 分析センター	
23	37	ムラタ計測器サービス (株)	
24	40	ユーロフィン日本環境 (株)	
25	41	輝達商事 (株)	賛助
26	44	ビーエルテック (株)	賛助
27	45	(一社) 日本環境測定分析協会	一般参加

27社 45名

協賛企業

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 関東化学 (株) | 2. 高圧ガス工業 (株) |
| 3. 輝達商事 (株) | 4. ビーエルテック (株) |
| 5. ラボテック (株) | |

協賛企業 5社

講師	2	名
来賓	5	名
会員	27社	45名
	合計	52名

2025年 新春賀詞交歓会報告

2025年 新春賀詞交歓会は来賓5名、協賛企業5社、会員企業32社67名と多くの方に参加いただき盛況に開催されました。

今回は来賓として東京都環境局環境改善部 部長 戸井崎 正巳様、同 大気保全課長 名取 雄太様、東京都生活文化スポーツ局計量検定所 所長 戸澤 互様、(一社)日本環境測定分析協会 会長 小野寺 明様、同 副会長 清水 重雄様に来賓としてご臨席いただきました。

日 時 : 2025年1月21日(火) 17:00~

場 所 : アルカディア市ヶ谷 4階 「鳳凰」

初めに当協議会の平賀会長より開会宣言があり、その後、戸井崎部長、戸澤所長からそれぞれ新年のご挨拶を頂戴しました。続いて、小野寺会長のご発声で、賀詞交歓会が始まりました。

食事・お酒も進み、会場が程よく和んだ頃合いで例年であればビンゴ大会を開催するところですが、今年は趣向を変えまして、朝チアとしてTVでも紹介されましたAJO☆朝チア部の皆さんにチアリーディングを披露いただきました。「YOUNG MAN」などお馴染みの曲に合わせて参加者も巻き込みつつ、会は大いに盛り上がりました。その後は朝チア部の進行のもと協賛企業様の紹介、出席の皆さんの応援をしつつ会は進みました。

楽しい時間となりました賀詞交歓会もいよいよお開きの時間となり、村野理事による閉会の挨拶が行われお開きとなりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



『新年挨拶』

東京都環境計量協議会
会長 平賀 積善



平賀会長

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いします。

また、技術研修会に引き続き出席して頂いております東京都環境改善部様、東京都計量検定所様、日本環境測定分析協会様、改めて感謝申し上げます。また、この様に多くの東京都環境計量協議会会員の皆様及び協賛企業の皆様に集まって頂き、心より感謝申し上げます。

さて、今回の技術研修会は如何だったでしょうか。常にラブコールを送り続け、待ちに待った東京都環境改善部様にやっと講演を頂けました。環境計量業界と東京都様及び東京都計量検定所様が進むべき環境業界の明日が少し見えてきたかと思えます。是非ともこの賀

詞交歓会の中で大いに環境計量協議会に関わる未来の大きな夢を声にして下さい。また、私たち環境計量業界が何をすべきかを大いに語り合ってください。未来を常に意識した当協議会の第一歩が本日確かに踏み出されたと確信しております。

本日はどうぞ宜しくお願いします。



『新年挨拶』

東京都環境局環境改善部
部長 戸井崎 正巳様

ハハム



戸井崎部長

ただいまご紹介いただきました東京都環境局 環境改善部長の戸井崎でございます。

本日は、東京都環境計量協議会の賀詞交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より、東京都環境計量協議会の皆様方には東京都の環境行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。年頭に当たりひとことご挨拶を申し上げます。

さて、今年は阪神淡路大震災から 30 年という節目の年となります。阪神淡路大震災では、多くの建物が被害を受けました。そして、その建物の解体や撤去の際に問題になったのがアスベストです。当時、十分な飛散防止や曝露防止対策を取らずに作業が行われ、関係者に健康被害が出たと言われております。そういった経験を踏まえて、これまでアスベスト対策が見直されてきましたが、改めて教訓として認識しておく必要があると考えております。

最近でも、南海トラフ地震の臨時情報が出されるなど、災害のリスクが身近に迫ってきているように感じます。このような節目を契機に、東京都としても平時における備えの大切さを再度認識し、都内の関係自治体や業界団体の皆様と連携して、災害対応を推進していきたいと考えているところでございます。

さきほどの技術研修会の中でも話がございましたが、貴協議会と東京都は、災害時のアスベストによる被害を防止するため、大気中の石綿を迅速にモニタリングできるよう協定を締結し、体制を整備してきました。また、貴協議会には、災害時のアスベスト対策に係る研修を共同で開催させていただくなど、ご協力いただき感謝申し上げます。

災害対策以外におきましても、環境モニタリングなど引き続き実施して参ります。東京都環境計量協議会並びに会員の皆様におかれましては、引き続き、都の環境行政にご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

結びになりますが、貴協議会及び会員の皆様の益々のご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

『新年挨拶』

東京都生活文化スポーツ局計量検定所
所長 戸澤 互様



戸澤所長

皆様新年明けましておめでとうございます。東京都計量検定所所長の戸澤と申します。よろしく願いいたします。僭越ではございますが、新年のあいさつをさせていただきます。まずは東京都の計量行政に日ごろからご協力いただき誠にありがとうございます。東環協の皆様には環境計量証明事業ということで日ごろから多大なご尽力をいただいていますこと、この場をお借りして感謝を申し上げます。

さて今年は2025年ということで、実は昭和100年にあたります。昭和生まれの方も多いと思いますが、次の年齢と生まれた年を足してみるとちょうど100になるのではないかと思います。

改めて昨年1年を振り返ってみますと、年始から能登半島の地震がありましたし、台風や線状降水帯による大雨もありました。また物価高も急速に進み、皆さん困ったのではないかと思います。そんな中で去年注目すべきはスポーツ関係でしょうか。大谷翔平の50-50は金輪際あのような記録は出ないだろうものを見ることができました。また去年を表す漢字が発表されまして、去年は「金」ということでした。「金」というのは去年だけでなく過去にもあるそうですが、この「金」はオリンピック、パラリンピックのゴールドラッシュという意味と、裏金の「金」との意味もございました。もう一つ去年を思い出すものとして流行語大賞の「ふてほど」などもございました。

今年に入りまして、何が注目されるかといえばトランプ大統領の就任ではないかと思います。早速WHOの脱退などの話もございました。それ以外にも今世界中の人が戦々恐々としているのは関税の問題かと思えます。選挙当初より中国に上乘せ60%、メキシコとカナダには不法移民、麻薬の問題の対策として25%の関税をかけるという話でございました。他の国に関しても10~20%の関税をかけるということで、これは日本も例外ではないということでもございました。今後どうなっていくのか注視が必要かと思っております。

環境関係ですとパリ条約を離脱すると伝えられています。再生エネルギーや電気自動車への支援も打ち切るという話も出ており、皆さん非常に関心を持っておられると思えます。

その他韓国の問題、中国の問題などいろいろとございますが、その中でもなんとかやっていかなければならないと思っております。

結びになりますが、東環協様の益々のご発展と、ご参集の皆様の今後の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして私からのあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございます。



日環協 小野寺会長による乾杯



歓談風景



AJO☆朝チア部のパフォーマンス①



AJO☆朝チア部のパフォーマンス②



AJO☆朝チア部のパフォーマンス③



村野理事による閉会の挨拶



集合写真

2025年 東京都環境計量協議会 賀詞交歓会出席者名簿

東京都環境計量協議会

2025年1月21日（火）

於 アルカディア市ヶ谷 4階 「鳳凰」

来 賓

東京都環境局環境改善部	部長	戸井崎 正巳様
東京都環境局環境改善部	大気保全課長	名取 雄太様
東京都生活文化スポーツ局計量検定所	所長	戸澤 互様
(一社) 日本環境測定分析協会	会長	小野寺 明様
(一社) 日本環境測定分析協会	副会長	清水 重雄様

会 員

No		会 社 名	氏 名	備 考
1	1	いであ (株)		
2	3	(株) エオネックス		
3	5	(株) オオスミ		
4	12	(株) 環境管理センター		
5	15	(株) 環境技術研究所		
6	16	環境リサーチ (株)		
7	17	シグマジオテック (株)		
8	19	(株) 島津テクノリサーチ		
9	21	新日本環境調査 (株)		
10	23	成友興業 (株)		
11	24	(株) 総合環境分析		
12	25	帝人エコ・サイエンス (株)		
13	28	(株) デイラボ		
14	29	(一財) 東海技術センター		
15	30	(株) 東京環境測定センター		
16	31	(株) 日新環境調査センター		
17	33	(株) 日本シーシーエル		
18	34	(株) 日本総合科学		
19	36	(株) 日本分析		
20	40	ヒロエンジニアリング (株)		
21	42	(一財) 広島県環境保健協会		

22	45	(株) 分析センター		
23	47	ムラタ計測器サービス (株)		
24	51	ユーロフィン日本環境 (株)		
25	54	関東化学 (株)		賛助
26	57	高圧ガス工業 (株)		賛助
27	58	輝達商事 (株)		賛助
28	61	ビーエルテック (株)		賛助
29	62	ラボテック (株)		賛助
30	63	(一社) 日本環境測定分析協会		一般

30社 63名

協賛企業

1. 関東化学 (株)
3. 輝達商事 (株)
5. ラボテック (株)

2. 高圧ガス工業 (株)
4. ビーエルテック (株)

協賛企業 5社

来賓		5	名
会員	30社	63	名
	合計	68	名

2024 年度 環境計量証明事業団体合同研修会報告

首都圏環境計量協議会連絡会（首都圏環協連）主催の 2024 年度環境計量証明事業団体合同研修会に東環協を代表して役員 7 名が参加しました。

今回は、「環境計量事業の在り方と今後の展望について」と題し、計量行政から見た事業の状況を講演いただき、そして、この会を主催してきた首都圏環協連代表者による座談会が催されました。

1. 開催概要・スケジュール

1) テーマ 環境計量事業の在り方と今後の展望について

2) 主 旨 これまでの環境計量証明事業は、多種類の分析に対応して課題解決に貢献してきた。その結果、昭和 40 年代の公害対策から大きく改善し、現在では広い意味での「環境」に対する計量が求められている。そこで、今回の研修では、環境計量証明事業を所管する「計量法」の目的を顧み、環境計量証明事業者がより意識すべきことを再認識し、分析機関として今後の社会にどのように自発的かつ率先的に貢献していくべきかについて考える。

3) 日 時 2025 年 2 月 21 日(金) 研修会 13:00~17:00

4) 場 所 グレイドパーク秋葉原（東京都千代田区外神田 1-15-18 奥山ビル）

2. 講演

(1) 「計量法と環境計量証明事業について」

経済産業省イノベーション・環境局計量行政室 室長 仁科 孝幸様

(2) 「立入検査からみた環境計量証明事業の現況について」

埼玉県産業労働部計量検定所 齋田 吉裕様

3. 座談会

首都圏環協連県単の代表者（東京、神奈川、千葉、埼玉）による
「環境計量証明事業の今後の展望について」



会場風景

4. 参加者数等

研修会 4 1 名参加、情報交換会 3 5 名参加

・首都圏環協連

一般社団法人 埼玉県環境計量協議会	1 4 名
一般社団法人 神奈川県環境計量協議会	3 名
横浜市環境技術協議会	1 名 (兼任)
千葉県環境計量協会	3 名
東京都環境計量協議会	7 名

・参加県単

北海道環境計量証明事業協議会	1 名
一般社団法人 福島県環境測定・放射能計測協会	1 名
一般社団法人 愛知県環境測定分析協会	1 名
大阪環境測定分析事業者協会	4 名
一般社団法人福岡県環境計量証明事業協会	2 名

・行政

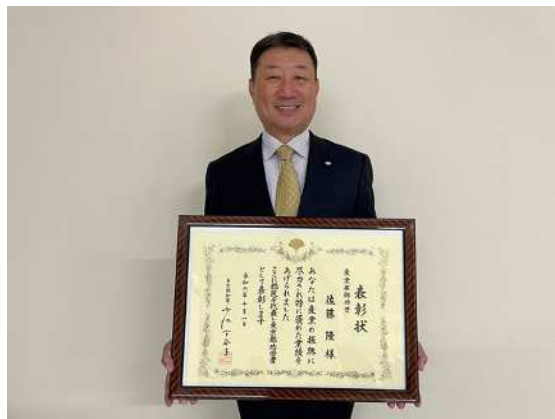
経済産業省イノベーション・環境局計量行政室	室長	仁科 孝幸様
埼玉県産業労働部計量検定所		斎田 吉裕様
東京都生活文化スポーツ局計量検定所	所長	戸澤 互様
神奈川県産業労働局計量検定所	次長	大羽 将之様
千葉県商工労働部計量検定所		高野 光様

受賞のお知らせ

令和 6 年 10 月 1 日の東京都功労者表彰において産業振興功労として、株式会社分析センター代表取締役社長 佐藤 隆様が受賞されました。

佐藤様は前東環協会会長であり、また長年にわたり産業の発展に尽力された功績が認められての受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。



関係機関・団体の動き

2025年2月現在、既に行われたまたは今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです [東環協ニュース第185号以降分]。

○ 首都圏環境計量協議会連絡会

- | | | |
|------------------|-------|--------------|
| ・2024年度第3回委員会 | 12月3日 | 太平洋コンサルタント本社 |
| ・県単合同研修会 | 2月21日 | グレイドパーク秋葉原 |
| ・首都圏合同・新任者教育セミナー | 6月上旬 | (詳細未定) |

○ (一社)神奈川県環境計量協議会

- | | | |
|-------------|-------|---------------|
| ・2024年度臨時総会 | 1月23日 | 横浜市開港記念会館 |
| ・事例発表会 | 1月30日 | 横浜市金沢産業振興センター |
| ・2025年度通常総会 | 5月20日 | 横浜市金沢産業振興センター |

○ 千葉県環境計量協会

- | | | |
|-----------------|--------|-----------|
| ・技術発表会+技術者フォーラム | 11月22日 | 千葉県経営者会館 |
| ・新春講演会 | 1月24日 | ホテルプラザ菜の花 |
| ・2025年度通常総会 | 4月18日 | (詳細未定) |

○ (一社)埼玉県環境計量協議会

- | | | |
|--------------|-------|--------------------------------|
| ・新春講演会・研究発表会 | 1月31日 | KP ガーデンシティ-PLEMIUM
大宮ホール 2G |
| ・2025年度通常総会 | 5月30日 | (詳細未定) |

○ (一社)日本環境測定分析協会

- | | | |
|---------------|-------|----------|
| ・2025年度通常社員総会 | 5月27日 | タワーホール船堀 |
|---------------|-------|----------|

東環協からのお知らせ

○ 2025 年度 主要行事予定

- ・ 2025 年度通常総会 5 月 8 日 アルカディア市ヶ谷

○ 事務局からのお知らせ

- ・ 現在の会員数（2025 年 2 月現在）

正会員 59 社

賛助会員 19 社 合計 78 社

○ 編集後記

「東環協ニュース(第 186 号)」が完成しましたので皆様にお届けいたします。今回は、2024 年 10 月から 2025 年 2 月に行われました行事を中心に記事を掲載しました。なお、2024 年度の主要行事は、技術研修会、新春賀詞交歓会をもって終了となりました。本年度も会員の皆様方のご協力の下つつがなく全行事を開催できたことを、この場を借りて心より御礼申し上げます。

なお、本年 5 月には 2025 年度通常総会の開催が予定されています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

LC/MS用溶媒

PFOS
PFOA
PFHxS

の保証を追加!!

特長

金属不純物(14種)を保証*
日本薬局方の試薬規格に適合
従来の保証内容を踏襲。UHPLCシステムに最適

品目	容量	日本薬局方 適合	金属(14種) 保証	PFAS 試験適合性
アセトニトリル	200mL、1L、3L	○	○	○
蒸留水	200mL、1L、3L		○	○
メタノール	200mL、1L、3L	○	○	○
2-プロパノール	200mL、1L、3L	○		



*金属(14種) : Ba, Ca, Cd, Co, Cr, Cu, Fe, K, Mg, Mn, Na, Ni, Pb, Zn

関連
商品

認証標準物質
(CRM)

製品番号	メーカーコード	製品名	容量
49922-34	PFAS-3PAR	有機フッ素化合物混合標準液(3種) (L-PFOS, PFOA, L-PFHxS each 2ug/mL)	1.2mL
49922-35	MPFAS-3ES	有機フッ素化合物混合内部標準液(3種) (M8PFOS, M8PFOA, M3PFHxS each 2ug/mL)	1.2mL



PFAS分析に最適な超純水が 装置から直接採水できます

- 今お使いの超純水装置では PFOSや PFOAが
検出されてしまってブランク水に使用できない
- PFOS/ PFOAフリー超純水を購入して
使うのはコストがかかるし、面倒だ

…こんなことでお困りの分析者の方へ

エルガ・ラボウォーターの
PURELAB Chorus 1
Analytical Research なら
そのまま使えます



超純水中の PFOS、PFOA、PFHxS の分析例

	PURELAB Chorus 1 水
PFOS	<DL(0.02 ng/L)
PFOA	<DL(0.02 ng/L)
PFHxS	<DL(0.02 ng/L)

分析：株式会社アクアパルス（2022）

試験方法：

PFOS、PFOA：令和 2 年環水大発第 2005281 号 / 環水大土発第 2005282 号
付表 1 固相抽出 IC-MS/MS 法

PFHxS：令和 2 年環水大発第 2005281 号付表 1 準用

エルガ超純水装置は採水口フィルターからの
コンタミの心配がありません



より詳細な情報をご希望の方は下記までお問い合わせください。また、評価用サンプル水、デモ機のご依頼は輸入元セナーアンドバーンス株式会社まで

製造元

ヴェオリア・ジェネッツ株式会社

エルガ・ラボウォーター事業部

〒108-0022 東京都港区海岸 3-20-20 ヨコソーレインボータワー

e-mail: jp.elga.all.groups@veolia.com

http:// www.elgalabwater.com

ELGAは Veolia Water の実験室用水の国際ブランド名です。PURELABは ELGA LabWater の商標および技術です。【禁無断転載・複写】

輸入元

S-VANS セナーアンドバーンス株式会社

〒144-0041 東京都大田区羽田空港 1-6-6 第一綜合ビル

TEL: 03-5708-7300 FAX: 03-5708-0151 http:// www.s-vans.com

札幌営業所 TEL: 011-823-2250 神戸営業所 TEL: 078-331-7292

北九州営業所 TEL: 093-533-5371

高圧ガス工業の標準ガス

高圧ガス工業は環境測定のお手伝いに徹し貢献していきます
標準ガスは、様々な用途で使用されています。大気測定から煙筒、排気ガス、医療現場と幅広いユーザー様に支持を受けています

Standard Gas

◆ラインナップ

- ・ JCSS標準ガス 1級、2級、零位
- ・ 一般標準ガス
- ・ 医療機器校正用標準ガス

◆容器 / 充填圧力

- ・ 容器種類：3.4L 10L 47L マンガン容器
- ・ 口 金：W22×14山 右・左
- ・ 充填圧力：14.7 MPa max
- ・ 脱着キャップ、ハンドルバルブ



High Purity Gas

◆ラインナップ

- ・高純度アルゴン UP1 99.9999 % UP3 99.999 %
- ・高純度窒素 UP1 99.99995 % UP3 99.9995 %
- ・高純度水素 UP1 99.99999 % UP2 99.9999 %

◆容器 / 充填圧力

- ・ 容器種類：3.4L 10L 47L マンガン容器
- ・ 充填圧力：14.7 MPa max
- ・ 口 金：W22×14山 右・左
- ・ 脱着キャップ、ハンドルバルブ

Pressure Regulator

◆特長

・理化学機器に特化した、高品位の圧力調整器で、ガスを安定した圧力と流量で供給できるよう設計されています

◆スペック

- ・HP-1：1段減圧 供給圧 0-0.9 MPa
- ・HP-2：2段減圧 供給圧 0-0.9 MPa
- ・Bs/ステンレス製



高圧ガス工業株式会社

ガス開発部 特殊ガス課

<http://www.koatsugas.co.jp>

東京事務所 東京都千代田区内幸町1丁目2番1号 日土地内幸町ビル9階
滋賀高圧ガス流通センター 滋賀県東近江市五箇荘川並368番地

TEL 03-3595-3122
TEL 0748-48-5933

お客様各位

平素はエルメックス商品をご愛顧賜り誠にありがとうございます。

ELMEX Post は、微生物検査ご担当者様宛に、弊社商品の発売や仕様変更、セミナー・学会・展示会、その他関連する情報を提供する目的で発信しています。本紙が適切でない部署に配信されている場合は、適切な部署へ転送下さいます様よろしくお願い申し上げます。

◆◆◆ 水質汚濁に係る環境基準が変更されます ◆◆◆

大腸菌群検査から特定酵素基質寒天培地による大腸菌検査へ

環境基本法第16条第1項「水質汚濁に係る環境基準について」の一部改正

令和3年3月の「水質汚濁に係る生活環境の保全に関する環境基準の見直しについて(第2次報告案)」を受け、生活環境項目環境基準において、よりふん便汚染の指標性が高い大腸菌数を新たな衛生微生物指標とし、大腸菌数の測定には特定酵素基質寒天培地による検査法が適当とされました。

特定酵素基質 5-ブromo-4-クロロ-3-インドリル-β-D-グルクロニド(X-GLUC)を含む、当社のアガートリコロールが大腸菌数検査に使用できます。

〈検査方法〉

- ①滅菌した密閉できる容器に採水
- ②メンブランフィルターで検水を吸引ろ過
- ③ろ過したメンブランフィルターをアガートリコロール培地に密着させ、倒置し培養
- ④培養後青色のコロニーを数える

〈大腸菌数の環境基準〉(予定)

水道1級	100CFU/100mL
水道2級	300CFU/100mL
水道3級	1000CFU/100mL
水浴(プール等)	300CFU/100mL
自然環境保全 人為的なふん便汚染が極めて少ないと考えられる地点 および自然公園等に指定されている海域の河川・湖沼	20CFU/100mL

環境省から上記命令等の適用は、令和4年4月1日の予定です。

Pro-media *Pro*

トリコロール

大腸菌群・E.coli 同時検査用

ラウリル硫酸 Magenta-GAL・X-GLUC 寒天培地

透明な培地の上に E.coli は青く、大腸菌群は赤く発色。判定が簡単にできます。



〈使用方法〉

1袋(7.85g)を200mLの精製水、または39.3gを1000mLの精製水に加え、加温溶解するか、オートクレーブ滅菌を行う。

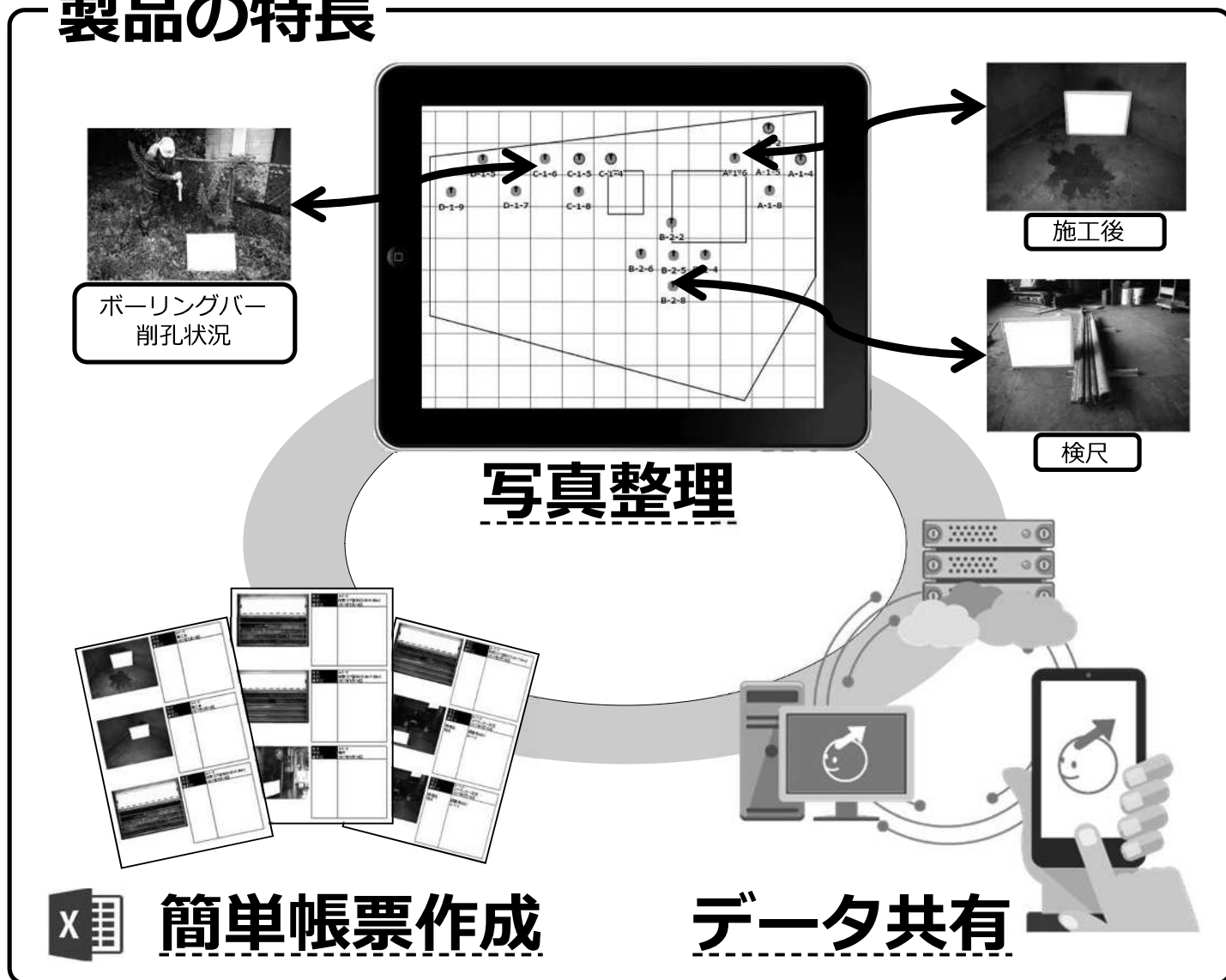
(加温溶解した培地は当日中にご使用ください)

品名	Pro-media アガートリコロール(顆粒)	
コードNo.	XMA-01N	XMA-400
入数	7.85g/袋×40	400g/ボトル
価格(税別送料込)	¥17,000	¥21,300

---- カタログ・サンプル 要求書 ---- Fax: 03-3831-9829 ----

送付先をご記入ください		お気軽にお問合せください アガートリコロール <input type="checkbox"/> カタログ希望 <input type="checkbox"/> サンプル希望
御社名	e-mail	
〒 ご住所	都道府県	
ご担当者名	TEL	
ユーザー様名	エルメックス商品仕入れ先(業者名) 東京科研	

製品の特長



タブレットを現場で活用すると…???

- ✔ 地歴調査の現地踏査写真整理業務、工数80%削減！
- ✔ 土壌汚染状況調査の写真整理業務、工数50%削減！
- ✔ 現場管理者が調査進捗状況をリアルタイムに確認可能！
- ✔ 作業員が試料採取済み箇所を瞬時に把握！

■採用実績(五十音順)

株式会社環境管理センター、帝人エコ・サイエンス株式会社、他



■製品のお問い合わせ

日本コントロールシステム(株)

<http://www.nippon-control-system.co.jp/>

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-18 三富ビル新館5F

TEL : 03-3443-5081 (ピクタム担当)

MAIL : pictum@nippon-control-system.co.jp

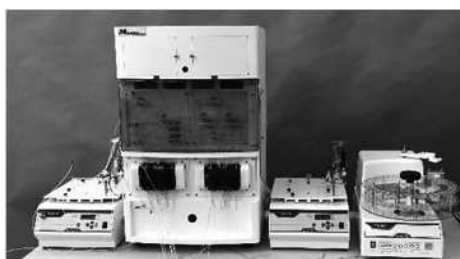
ビーエルテックの自動化学分析装置



新型オートアナライザー「MiSSion」

ふっ素 シアン フェノール類 全窒素 全りん

- 1 新開発の光学系により測定レンジが広がりました。
- 2 原理は、気泡分節型連続流れ分析法 (CFA)で計量証明機関で多くの実績があります。
- 3 **ふっ素、シアン、フェノール類**の蒸留、発色操作も自動で行えます。
- 4 **全窒素全りん**のオートクレーブ分解、発色操作も自動で行えます。
- 5 自動洗浄装置装着時、**オートスタート機能**、自動プラテンリリースできます。
- 6 国内生産です。
- 7 JISK0102、環境省告示対応メソッドです。 1時間20検体測定ができます。



MiSSion-ふっ素シアン



MiSSion-全窒素全りん

全自動酸化分解前処理装置 DEENAシリーズ

特長

1. 試薬を自動で導入できます。
2. 自動で加熱をします。
3. 内部標準も入れられます (オプション)
4. メスアップも自動で行います。



DEENA60
(50mlバイアル 60本掛け)

連続流れ分析法 (CFA法) を用いた、酸添加加熱分解装置AATM (アトム)

特長

1. 液体サンプルは、酸と混合、加熱しICP-MSへそのまま導入され測定されます。
2. 気泡分節のCFA法を利用した装置です。
3. 土壌汚染関連、排水、飲料水など全自動で測定できます。



ビーエルテック株式会社 <http://www.bl-tec.co.jp>

本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル 2F
TEL: 06-6445-2332 FAX: 06-6445-2437

東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモトビル4F
TEL: 03-5847-0252 FAX: 03-5847-0255

九州支店 〒811-3311 福津市宮司浜1-16-10-101
TEL: 0940-52-7770 ※FAXは本社へ

測定精度の向上
人的エラーの解消
前処理時間の短縮
自動化、省力化・・・

全て解決！

メトローム イオンクロマトグラフ



930 IC 本体



940 IC 本体

+



858 サンプルプロセッサ
+ 800 ドジーノ (電動ビュレット)

+



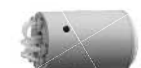
942 拡張モジュール



ろ過デバイス
限外ろ過



透析デバイス
ダイヤリシス



中和・除去デバイス
中和 / 金属除去



濃縮・除去デバイス
濃縮 / カラムスイッチング
/ マトリックス除去

メトローム 自動前処理システム Metrohm Inline Sample Preparation (MISP) は、手作業でおこなっていたイオンクロマトグラフのサンプル前処理を完全自動化できます。

MISP は、メトローム開発したイオン分析のための自動前処理手法です。マトリックスの除去、濃縮、希釈、pH 調整、中和等の作業と時間のかかる作業を完全自動化します。前処理工程を改善するとともに、分析精度の向上にも有効です。

イオンクロマトグラフィの原理からトラブルまでご隠居さん達が楽しく解説する大人気コラム「ご隠居達のIC四方山話(よもやまばなし)」。ウェブサイトに掲載中！

IC 四方山話



 Metrohm

デモやサンプルテストもお気軽にお問い合わせください。
e-mail でのお問い合わせ: metrohm.jp@metrohm.jp

本社 〒143-0006 東京都大田区平和島 6-1-1 東京流通センター アネックス 9 階 TEL: 03-4571-1744 (IC 部) FAX: 03-3766-2080
大阪支店 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町 3-1-9 淡路町ダイビル 5 階 502C TEL: 050-4561-3140 FAX: 06-6232-2312
URL <https://www.metrohm.jp>